

(1) 学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○: 成果, ●: 課題)	対 策(・)
国語	○毎日の授業をまじめに受け、こつこつと努力する姿勢から、漢字の知識をはじめとする基礎力が身についている。 ○根拠や論理の展開を明確にして、自分の考えが相手に伝わるように文章化する力が身につけている。 ●意識調査より、読書量の低さがうかがえる。それが語彙力の乏しさや、文章の全体像をつかんだり、二つの文章を比較したりすることの難しさといった課題につながっている。	・引き続き帯単元として漢字テストをすることや、各単元のまとめとして自分の考えを文章化する活動に力を入れる。 ・授業の中で二つの文章を比較する活動や、物語・説明文の全体像をつかむために要約する活動を取り入れる。 ・図書館活用の授業を実践して、本に触れる機会を増やす。また、図書館司書とも連携を強め、学園生の実態に応じた本の紹介を進め、読書に興味をもたせる。
数学	○すべての領域・観点で、全国・県の正答率を上回っている。 ○学習に対しての意欲・意識が高い傾向にある。 ●数学的な説明に関して、無回答率が高かった。	・上位の学園生に合わせた課題設定も、適切に取り入れ、全体の学力向上につなげていきたい。 ・数学的な語句の説明や、理論だった考え方を養えるような課題を増やしていき、学び合い活動等を通して考えを言語化する場面を設定する。
理科	○化学・物理分野など実際に実験観察等で体感した分野に対しては、理解が深められている傾向がうかがわれる。 ●生物分野等での実際に見て確認できていない分野やその規則性による共通性などの理解が不十分であった。	・実験や観察を通して、イメージ化を行う。 ・それぞれの特徴や共通性についてのとらえをしっかりとおさえるような、指導を進める。

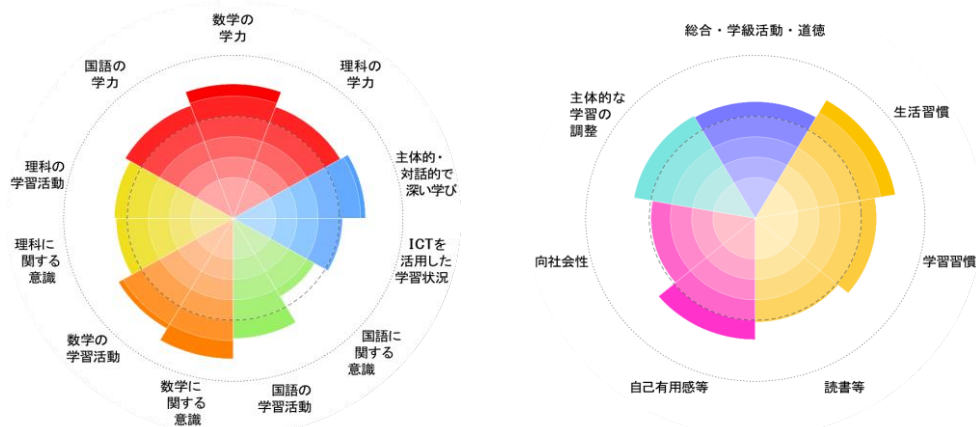
(2) 質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○: 成果, ●: 課題)	対 策(・)
質問紙	○家庭学習1時間以上に取り組む割合が県および全国に比べ高く、目標をもってまじめに学習に取り組む姿勢がうかがえる。 ○授業におけるICT機器の使用率が高く、自分の考えを分かりやすく伝えたり、調べたことを発表したりすることにうまく活用できている。 ●読書に対する関心が県および全国平均より低く、語彙力の低さにも結びついている。	・自学ノートの提出を継続させるとともに、それぞれの進路実現に向けて目標をもって学習に取り組む姿勢を支援する。 ・学校全体で図書館活用教育への理解を深めたり、授業の中で比較読みや図書を用いた発展学習を取り入れることを通して、学園生が本や言葉にふれる機会を増やす。

(3) その他、今後特に力を入れて取り組むこと

学校全体	・前期課程・後期課程を交えた教科部会を実施し、各教科における課題やその克服方法、身につけさせたい力について考え、9年間の学びの連続性を意識できるような学習計画を立案する。 ・総合的な学習の時間や各教科の授業の中で自らの考えを発表する際に、相手の立場に立って分かりやすい伝え方や表現の方法ができるように指導する。
------	--

(4) 学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



【受検者数】

18

名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。

(5) 質問紙調査の結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)

